

平成29年度第7回文系チャレンジ講座を実施しました

第7回文系チャレンジ講座が、平成30年1月17日、本学教育学部の藤野陽生先生により、「障害」とは何だろうか?と題して行われました。

遠隔配信された大分商業、竹田、国東、臼杵、大分鶴崎、大分西、三重総合、安心院、高田、大分雄城台、中津南、日田の12校220名の高校生が受講しました。

藤野先生は、まず「障害とは何か」を考えさせるにあたり、「障害」についての言い回しや表現について説明されました。「障害」の「害」の部分に使われる「害・がい・碍」の表現に「害」の字を使うことに対する新聞の投書、またその投書に対する様々な意見を提示し、受講生の感想を求められました。障害の定義や障害をめぐるさまざまな言葉と言説について、また自分たちが障害をどう認識しているかについても説明されました。その後、学校教育制度における「障害」として、視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱について説明されました。



「障害とは何だろうか?」という思考実験では、架空の「PhaNTM 障害」という障害を設定し、その障害に自分が認定されたらという想定で行われました。周囲から「障害」があると捉えられることや周囲の反応など、この話に抱く違和感とはどのようなものかについて考えさせました。日常生活にほとんど支障がないのに「障害」と認定されることの意味、また程度に関係なく「障害」を「個性」として捉えることについても問いかけ、説明されました。

特別支援教育とは障害を持つ幼児児童生徒の自立や社会参加に向け、一人一人の教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善・克服するための適切な指導や支援を行うものであることや学校教育法の改正により平成19年に盲学校・聾学校・養護学校が特別支援学校に一本化されたことなどの説明がありました。

最後に、特別支援教育について大学で学ぶ内容や、障害を持つ子どもや保護者と交流する学生たちの活動内容や様子などについての説明や紹介がありました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」(99%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(99%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」(99%)という結果でした。遠隔配信について

は、「音声はよく聞こえた」(95%)、「映像はよく見えた」(97%)という結果が出ました。受講生からは「障がいの事を深く考える機会になり、人の考え方や捉え方はそれぞれ違うということに改めて気づいた」「言葉だけでしか「障がい」のことを理解できていなかったことに気づくとともに、知らず知らずのうちに多くの人を傷つけているのだらうと思った」「障害は社会(環境)によって作られるものだということがわかった」といった感想が寄せられました。

